

甲斐市立玉幡中学校 自己評価書

令和4年1月24日（月）作成

校長 「 山本 成利 」 記述者 職名（教諭）「 河西 よしみ 」

学校教育目標 「ふるさとを愛し、高い知性と豊かな情操、たくましい意志と創造的な個性をもつ心身ともに健全な生徒の育成」

学校経営方針

- ・奉仕活動・ボランティア活動を中心に据えた特色ある学校づくりに努める。
- ・新学習指導要領の全面実施を見据えた、適切な教育課程の編成・実践に努める。
- ・自ら学ぶ習慣を育てる学習方法の改善と、その指導に努める。
- ・基本的な生活習慣の確立と、自他の尊重を重んじる「心の教育」を推進する。
- ・健康・安全指導の充実を図り、生涯体育の基礎作りを目指す。
- ・生徒指導・教育相談・防災教育等の充実を図る。
- ・学校・家庭・地域の連携を深め、地域とともに歩む教育活動の推進に努める。
- ・学校の教育活動全体を通して、体系的なキャリア教育の推進に努める。

1 全体評価

- 今年度の総合評価は、昨年度45観点から39観点に変わり、また内容も改変されているが、全てにおいて最頻値がAまたはBの評価となっている。
- 「Ⅰ学校教育目標」の項目では、5項目のうち3項目でA評価である。
- 「Ⅱ学校運営」の項目では、8項目のうち3項目でA評価である。
- 「Ⅲ学習指導」の項目では、どの項目においてもB評価が最頻値である。
- 「Ⅳ生徒指導」の項目では、6項目のうち4項目でA評価である。
- 「Ⅴ地域との連携」の項目では、6項目のうち2項目がA評価である。
- 「Ⅵ学校の特色」の項目では、4項目のうち2項目がA評価である。
- 「Ⅶ創甲斐教育」の項目では、3項目ともにB評価が最頻値である。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<ul style="list-style-type: none">・全5観点中3観点でA評価である。また4観点についてAB評価の合計がほぼ100である。・「あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている」「あなたの学校は、職場の福利厚生や健康増進について配慮がなされている」について、B評価の方が高い。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・「あなたはP→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている」についてB評価が多い。これについては、教員がどのように実践していけば良いか考える余裕がないことも一因と思われる。このことは、「職場の福利厚生・健康管理」についても関連している。この項目は、昨年度A評価だったが今年度はB評価が多く昨年度より低くなっている。昨年度同様コロナの影響で、さまざまな制約があり、生徒の健康管理や衛生管理などに時間が割かれ、一人一人の仕事がコロナ以前より増えていることで自分の健康増進まで時間が割けないと考えられる。校務支援システム導入により、勤務時間の明確化が図られ、個に応じた指導が行われた。しかし、コロナによるさまざまな対応や取り組みについての業務は変わらないために、教職員のオーバーワークが続いている。コロナが終息しない限り来年度も予想される教職員のオーバーワークが苦慮される。今年度同様、事務処理日を設

けるなど、また引き続き行事や会議の精選、仕事の効率化および多忙化解消に努め、教員の体調管理に役立て、各職員が「P→D→C→A サイクルを生かした教育活動」を考えられるような職場を目指していきたい。

II 学校運営について

達成状況

- 8 観点のうちA評価が3つだった。
- 「あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている」が昨年度よりA評価が高い。
- 「あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている」のB評価が特に高い。
- 「校務支援システムを十分活用できている」はB評価であるが、昨年度よりも改善している。

改善策

- ・コロナ禍において、さまざまな場面で教職員が連携し、協働体制で教育活動にあたらないうち乗り越えられないことが多くあったことが、A評価が多かった要因と考えられる。今後も、教職員が協力して困難を乗り越えていきたい。
- ・「業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている」のB評価が高いのは、今年度、新学習指導要領により新しい教科書が入り、また一人一台端末のクロームブックが入り、教師も学びの1年だった。このことで業務の効率よりも、やらなければならない仕事量が増えたことが、業務改善につながらなかったと考えられる。来年度もギガスクール構想による新しい取り組みが入り、今年度同様に授業準備や新しいことを学ぶ必要から業務改善は難しいと思われる。
- ・昨年度から導入された校務支援システムについては、それぞれが自己研鑽し、成績処理や事務等、努力して使いこなしている。来年度はシステム導入3年目となり、3年生の入試関連の事務手続きも過渡期から比べると効率化が図られると思われる。
- ・「あなたは、危機管理マニュアル（防犯・防災・事件・事故等）を理解している」が昨年度よりB評価が多くなっている。このことは、学校が大きな生徒指導上の問題がないことで、職員の意識が甘くなっていることも考えられる。生徒の様子をよく観察しコミュニケーションをとり、この状態を継続していくと共に、もう一度危機管理について職員が意識していく必要はある。

III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

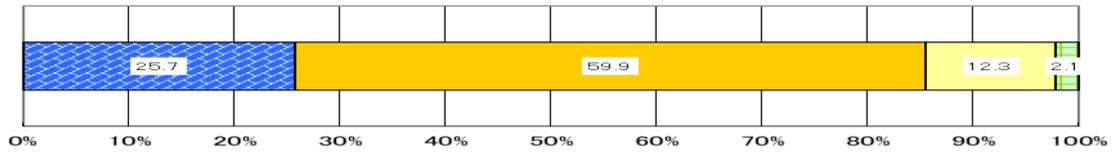
達成状況

- ・「児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている」「基礎・基本の定着を図る授業を行っている」「指導と評価の一体化に努めた授業を行っている」「協働的な学びを取り入れた授業を行っている」「宿題や家庭学習に対する指導を行っている」「生徒が自分の考えを書いたり、表現したりする授業にとりくんでいる」の7項目すべてB評価が最頻値である。
- ・「ICTを効果的に活用した授業を行っている」においてC評価もある。

「生徒・保護者へのアンケート」から

④学校の授業は楽しいですか。（上段 R2 下段 R3） 全校集計





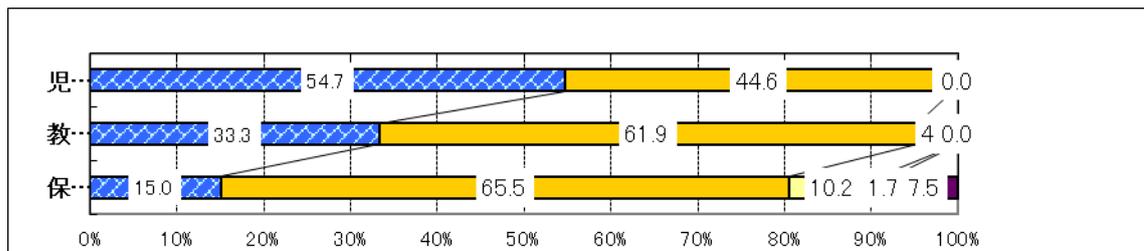
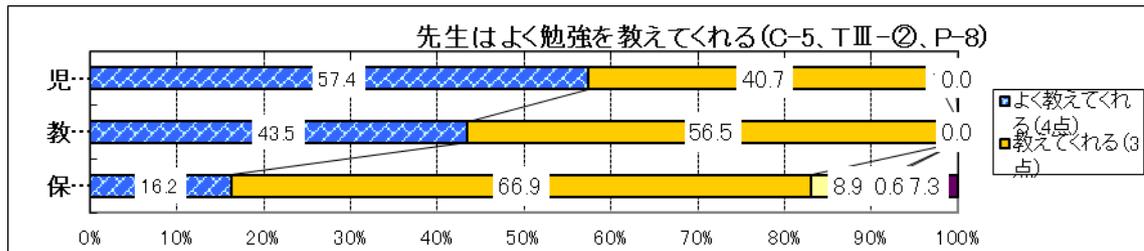
※全校では昨年度と同様 AB 評価が高い。しかし「C あまり楽しくない D 楽しくない」も 1 割程度いる。

関連項目の AB 評価による比較 (上段 R2 下段 R3)

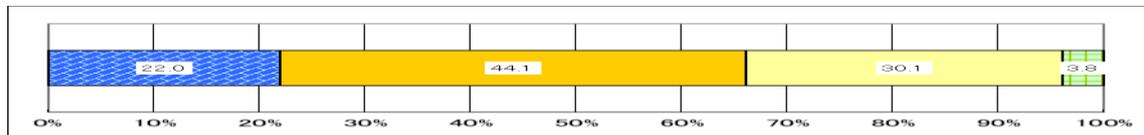
⑤生徒：先生はよく勉強を教えてくださいますか

教職員：生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている

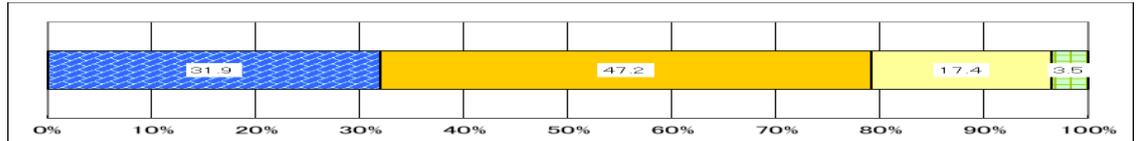
保護者：学校は熱心に授業に取り組んでいると思う



⑨人前でしっかりと自分の意見を言うようにしている。〈R3 全校〉

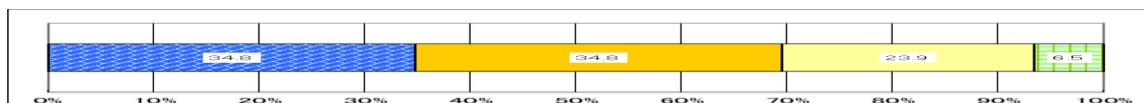
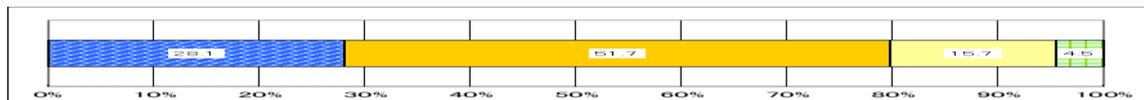


⑩字をていねいに書くようにしている。〈R3 全校〉



⑯月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。

(※1年:70分 2年:80分 3年:90分) (R3) 上段1年生 中段2年生 下段3年生

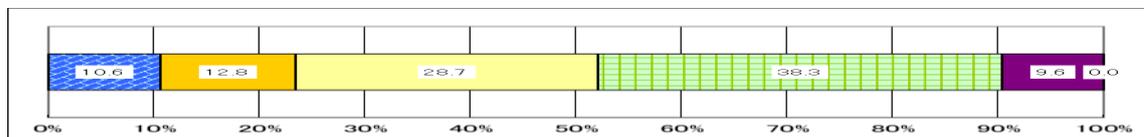
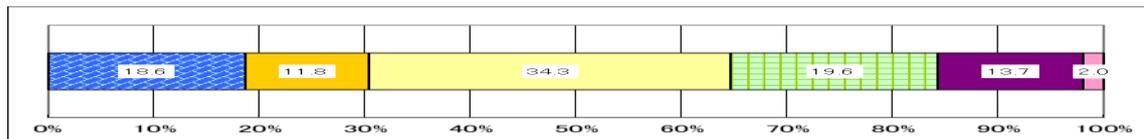


※1年生の AB 評価が高い。2年生は A 評価が低い。CD 評価が1年生 20%、2年生 43%3年 30%ほどいる。

⑰月曜日から金曜日までは家や図書館などで一日あたりどのくらいの時間読書を行いますか。
 ※「全くしない」割合が1年生27.2%、2年生26.7%、3年生30.9である。これは昨年度の同学年よりも多い状況である。

⑱スマホ/タブレット/ゲーム機/パソコンを学習以外で1日あたりどのくらいの時間使いますか。A 4時間以上 B 4時間より少ない C 3時間より少ない D 2時間より少ない E 1時間より少ない F 持っていない

(R3) 上段1年生 中段2年生 下段3年生



※2時間以上している生徒が、1年生54.4%、2年生64.7%、3年生52.1%で、昨年度より2年生は増加している。

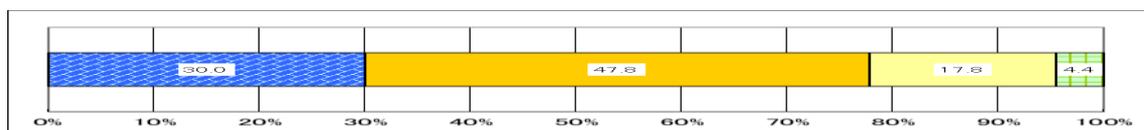
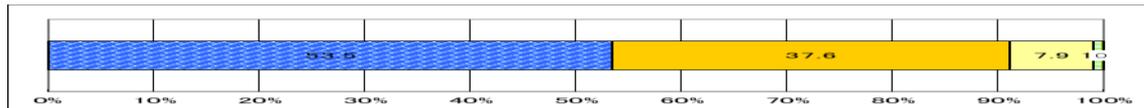
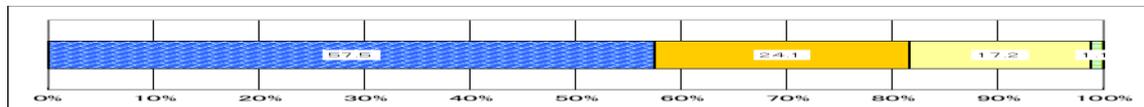
オリジナル項目

⑲あなたは、夕学に意欲的に取り組んでいますか。

※AB評価は、1年生82.7% 2年生80.2% 3年生77%。

⑳あなたは、クロームブックを使った授業は好きですか。

(上段1年生中段2年生下段3年生)



*AB評価は、1年生81.6% 2年生91.1% 3年生77.8%。

改善策

- 生徒アンケートで、「学校の授業は楽しいですか」は昨年度とほぼ同じである。しかし「C あまり楽しくない D 楽しくない」も1割程度いる。「先生はよく勉強を教えてくださいか」の観点において、AとB評価の合計と比較すると、生徒のアンケートで3学年とも98.0%と高い数値を示している。反面、教師と保護者のA評価が低くなっている。今年度も、コロナの影響で学校開放日が少なくなり保護者の理解を得るのは例年よりは難しかったと思われるが、今後もより多くの生徒が楽しくしっかり学習できる状況を提供していきたい。
- 「人前でしっかりと自分の意見を言うようにしている。」は、昨年度より10%弱、B評価が低くなっている。マスク生活で、話すことに対して消極的になっていることも要因と考えられる。一方、「字をていねいに書くようにしている。」は、10%弱、AB評価が高くな

っている。今年度、道徳の授業で講師に菊池省三先生を招き、生徒の自己肯定感を高める師範授業を全教職員が参観することができた。また帰りの会では、生徒同士が話すきっかけをつくるために、フリートークの時間をとって、生徒がコミュニケーションをとる取り組みを行ってきた。これからも更に取り組みを継続していき、コミュニケーションあふれる学校をつくっていききたい。

- ・「ICTを効果的に活用した授業を行っている」において教師はC評価であるが、生徒は「クロームブックを使った授業が好きだ」と8割が回答していることを考えると、今後、教師はICTを使う授業をもっと実施し、生徒の理解力を向上させる、よりわかる授業をつくっていくことが必要である。
- ・生徒アンケート⑩の「月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか」の観点では、「A勉強をいつもしている」「Bだいたいしている」と回答した生徒は1年生79.8%、2年生56.4%、3年生69.6%であった。また⑪「月曜日から金曜日まで家や図書館などで一日あたりどのくらいの時間読書をしますか」は全校で「D全くしない」と回答した生徒が1年生27.2%、2年生26.7%、3年生30.9%いる。一方、⑫「スマホ/タブレット/ゲーム機/パソコンを学習以外で一日あたりどのくらいの時間使いますか。」（保護者も同様）について、2時間以上している生徒が、1年生54.4%、2年生64.7%、3年生52.1%で、昨年度より2年生は増加している。このように、家庭での学習習慣の確立と時間や質と量も大切である。今後も、小中連携研究校の事業での成果を生かし、家庭学習への取り組みを、これまで以上に推進させていきたい。
- ・今年度は不登校生徒や怪我や入院など学校に来られない生徒に対して、希望があればクロームブックを貸し出し、授業のライブ配信を行ったことは大きな成果である。これからも柔軟に生徒・保護者の要望に対応していきたい。

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

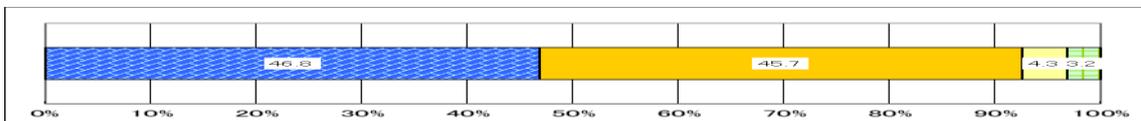
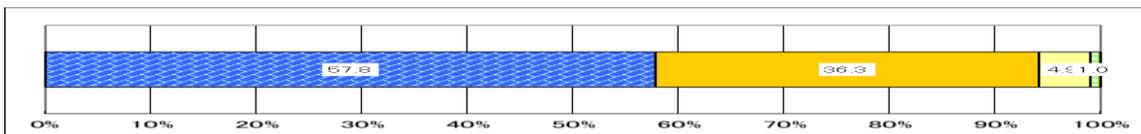
達成状況

・教師の自己評価は、6観点中4観点においてA評価が最頻値となっている。

※「生徒アンケート」全校集計より

①「学校は楽しいですか」（R3）上段1年生 中段2年生 下段3年生

A 楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない



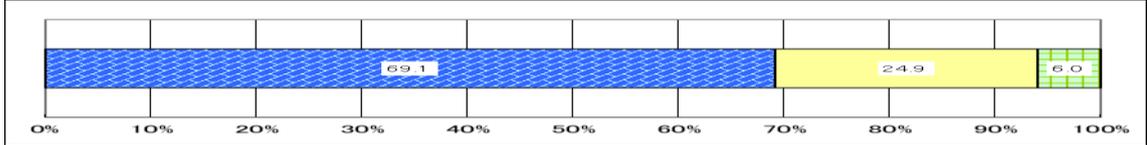
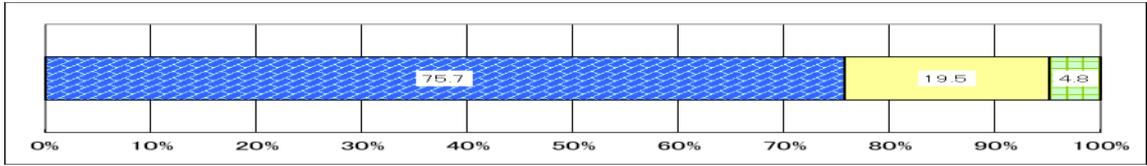
②「いろいろなことを相談できる友だちはいますか」全校（上段R2 下段R3）



※R3では「あまりいない」「いない」と答えた生徒が1割程度R2より増加している。

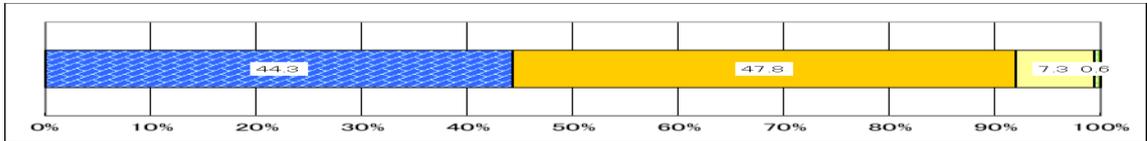
【関連項目のAB評価の合計による比較】(R2)

- ⑪「困ったことがあったら、相談できる先生がいますか」(上段 R2 下段 R3)
A いる C あまりいない D いない

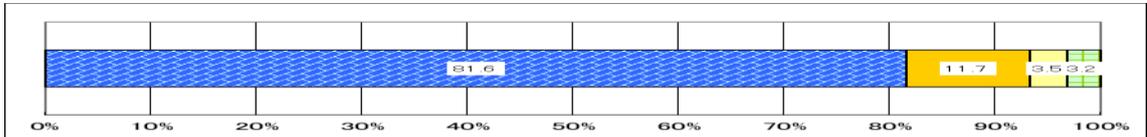


※昨年度よりも「A いる」は減少し、「C あまりいない・D いない」の割合が30%いる。関連項目でも保護者は40%が「C あまりいない・D いない・E わからない」と回答している。

- ⑫「人が困っているときは、進んで助けていますか」(上段 R2 下段 R3) 全校



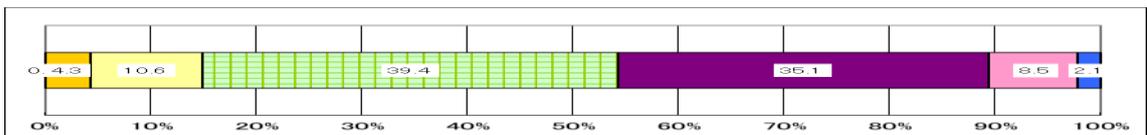
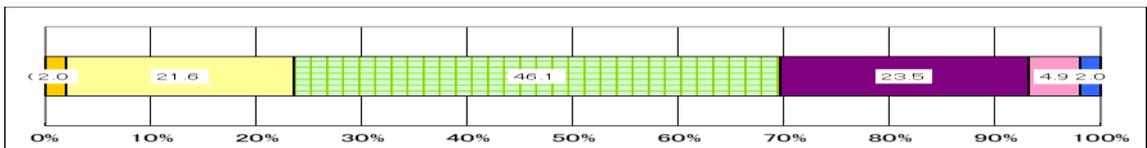
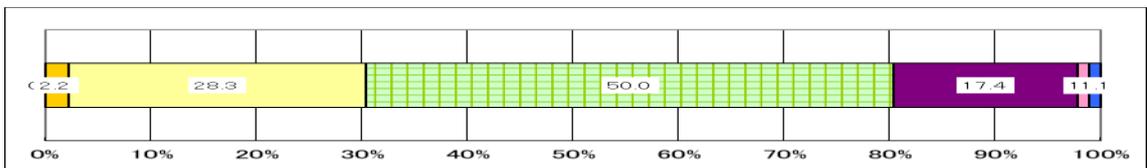
- ⑬「朝ごはんを食べて登校していますか」(R3) 全校



- ⑭月曜から金曜日までは、何時くらいに寝ていますか

(上段 1年生 中段 2年生 下段 3年生)

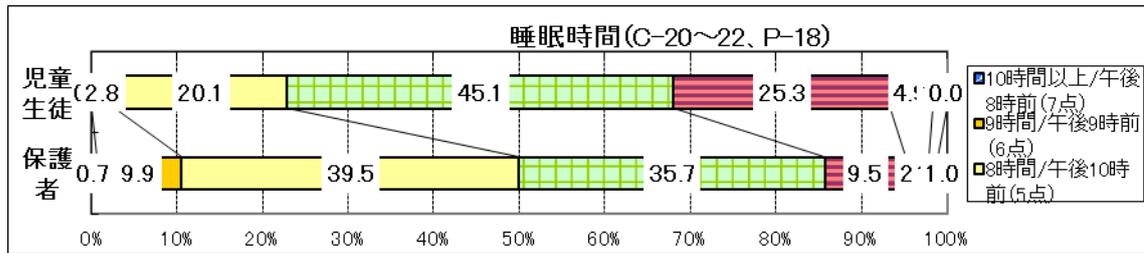
A 午後8時前 B 午後9時前 C 午後10時前 D 午後11時前 E 午前0時前 F 午前1時前 G 午前1時過ぎ



- ⑮保護者：平均睡眠時間はどれくらいですか 全校

A:10時間以上 B:9時間 C:8時間 D:7時間 E:6時間 F:5時間 G:5時間未満 H:わからない

生徒との相関図

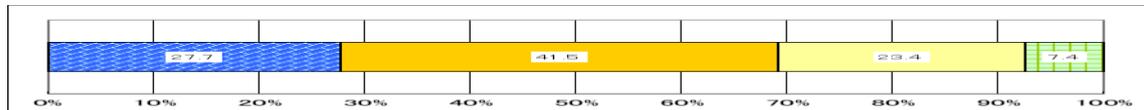
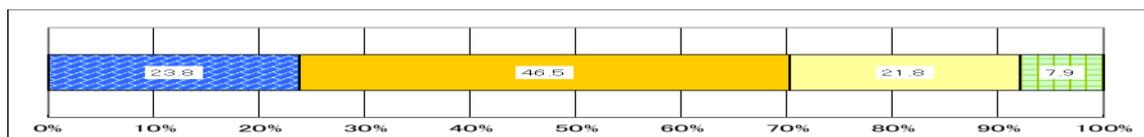


※保護者は全体集計で8時間39.5%、7時間35.7%と多い。生徒は0時以降に就寝している生徒が1年生2.2%、2年生6.9%、3年生10.6%いる。また午前1時過ぎの就寝も各学年いる。例年と同じで生徒は保護者が考えているほど睡眠をとっていない。

⑭家の人と学校での様子を話していますか。

※家の人と話をしている割合は80%程度どの学年も達成しているが、1、2割程度、家の人と話をしていない生徒がいる。

⑯将来の夢や希望をもっていますか。(R3)上段1年生 中段2年生 下段3年

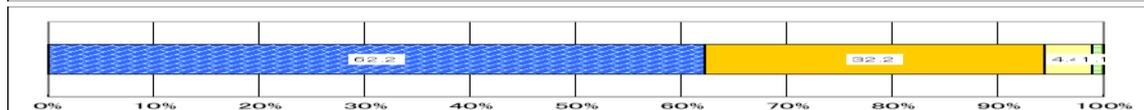
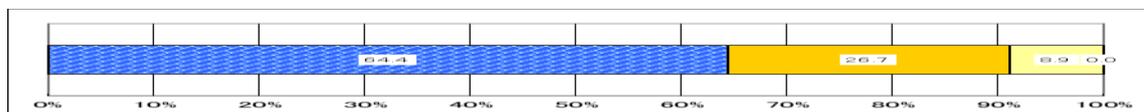
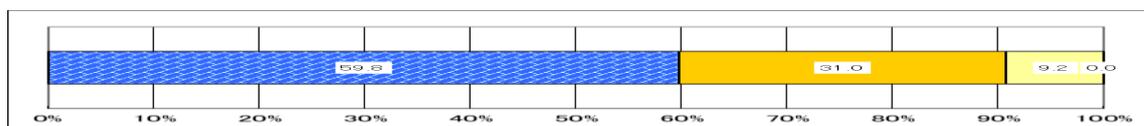


※夢や希望については、全学年70%程度AB評価である。

オリジナル項目

⑰あなたは友人関係にストレスをかかえていませんか。(上段1年生 中段2年生 下段3年生)

A かかえていない B 少しかかえている C かかえている



※どの学年でも30%から40%の生徒がストレスをかかえている。

改善策

・「学校は楽しいですか」「いろいろなことを相談できる友達がありますか」において昨年度同様 AB 評価は高い。甲斐市では生徒間の人間関係の理解を深める Q-U テストを行っていたが、今年度、本校では i-check に変え、更に詳しく生徒の状況を確認し、学年や担任が指導の手立てとした。また各学期1回のいじめアンケート、毎月の生活アンケートを実施している。更に担任との毎日の「やりとり帳」や「家庭学習ノート」で個別に生徒の状

況を把握している。これらの取り組みから、問題事例を迅速に把握し、速やかに学年会議や職員会議、生徒指導部会支援委員会や不登校対策委員会などその結果を共有する時間を設け、相互に情報交換している。事例によっては外部機関との連携を行うなど、よりよい解決を図ってきた。その結果、大きな生徒指導上の問題は起こっていない。今後も継続していきたい。

- ・「困ったことがあったら、相談できる先生がいますか」において、昨年度より数値は良くない。昨年度に引き続きマスクをして給食も黙食で前を向き、話し合い活動も制限し、教師と生徒が相互理解する時間的余裕もないという状況下で難しい点もあるが、問題の早期発見のためにも生徒が気軽に悩みを相談できるよう、生徒への積極的な声かけをする等、更に全職員で取り組んでいきたい。また「家で話をしていない」と答えた生徒が全体で1,2割いることも念頭に置き、家庭と連携し今後もこれらの取り組みを継続し、いじめの根絶と、生徒一人一人に目を向け、よりよい学校生活が送れるよう意識して努めていきたい。
- ・③「人が困っていたら進んで助けていますか」全校 90%以上が AB 評価で、昨年度と同様である。④「将来の夢や希望をもっていますか。」について、どの学年も 70%程度が AB 評価である。今年度は、コロナのために昨年度出来なかった修学旅行や宿泊学習を全学年で実施できた。さまざまな「生き方教育」の進め方が難しい状況であったが、今後も道徳の時間を要として、この状況下でできることを模索し心の教育や生き方教育を推進し、より多くの生徒が、夢や希望をもって生き生きと生活できるよう支援をしていきたい。
- ・生活リズムの乱れは睡眠にも起因する。朝ごはんを食べている割合は高いが、睡眠は、全体的に改善を要する生徒が多くいる。また保護者の把握している生徒の睡眠時間と生徒のものに差異がある。コロナの自粛生活も含め、家での生活が多くなり、生活リズムの乱れも心配ではある。オリジナル項目「友人関係にストレスを抱えていませんか」において、どの学年も 30%~40%の生徒が「抱えている」と回答している。コロナにより友だちとの交流も減っていることも考えられる。今年度が小中連携研究校の指定を受けて2年目となり、菊池省三先生を招いて生徒の自己肯定感を高める道徳の師範授業や帰りの会でのフリーストークタイムを取り入れるなど、様々な場面で生徒のコミュニケーション力向上を行ってきた。これらの取り組みをこれからも継続していきたい。しかし「睡眠」「ストレス」は学校生活や学習にも影響することを考えると、家庭と学校が協力して現状を理解し改善していく取り組みを今後も、更に考えていく必要がある。

V 地域との連携について

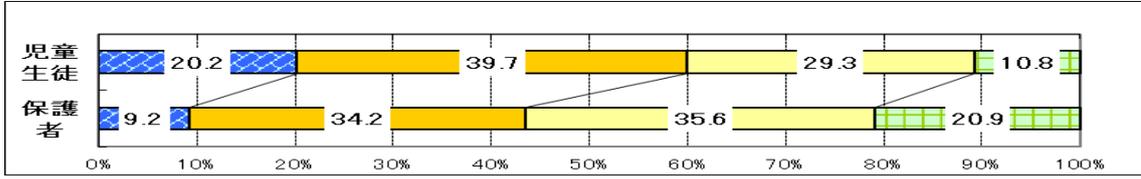
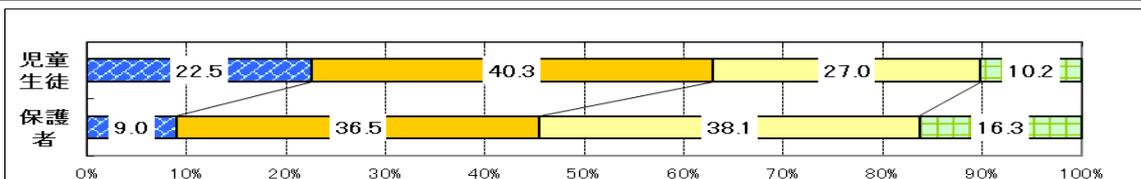
- 達成状況
- ・昨年度の9項目から6項目に減り、6項目のうちA評価が2項目であった。
 - ・今年度新たに入った項目で「あなたの学校は、地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保に努めている。」においてAB評価が高い。

※「生徒アンケート」全校集計より

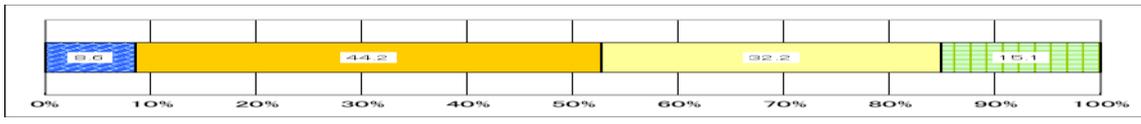
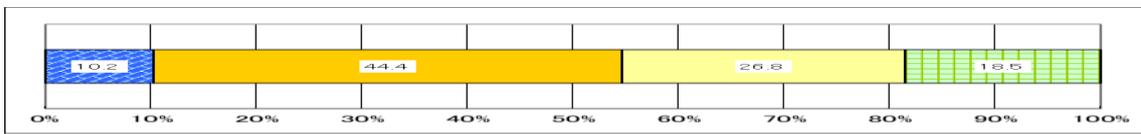
⑩今住んでいる地域の行事に参加していますか（上段 R2 下段 R3）全校



【関連項目のAB評価の合計による比較（上段 R2 下段 R3）



生徒（上段）：今住んでいる地域の行事に参加していますか
 保護者（下段）：おさんは今住んでいる地域の行事に参加していますか
 A:よくしている B:だいたい参加している C:あまり参加していない D:参加していない
 保護者⑩「PTA 活動に参加していますか」（上段 R2 下段 R3）



改善策

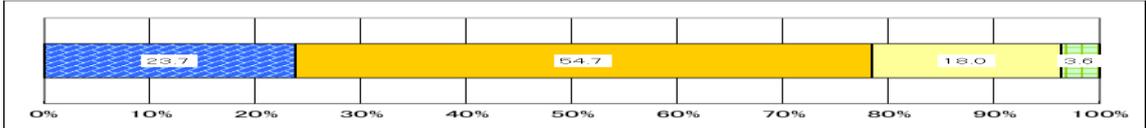
- ・「保護者の PTA 活動への参加」が昨年度より低くなっている。昨年度同様、コロナのために、PTA 活動の多くは中止せざるを得なかった。しかし夏の親子除草作業は PTA 役員のみではあったが、除草作業を行っていただきありがたかった。また学園祭体育の部を、昨年度は3年生の保護者だけだったのを、全学年の保護者の参観とした。また、文化の部についてはライブ配信をした結果、291名の視聴があった。また、ライブでは見られなかった家庭に向けて、録画配信も行った結果、1261名の視聴があった。これからも、オミクロン株の増加により、授業参観等の学校開放は難しい状況ではあるが、出来ることを模索し、開かれた学校を目指していきたい。
- ・教職員の「地域の人材活用・施設活用」「保護者や地域の願いに応えるため要望を聞くなど情報収集を行っている」「あなたは PTA 活動に積極的に参加している」において B 評価が最頻値である。研修部主催の 2020 東京パラリンピック選手の鈴木徹さんを招いての講演会は全校生徒対象で保護者向けにライブ配信も含め行わうことができた。昨年度同様、コロナのためにそれ以外の PTA 活動の中止等、地域の人材の活用も難しい状況であったが、今後も学校運営委員会や学校関係者評価委員会等コロナ禍でできることを模索しながら、地域や保護者の声を聞く機会を利用し、地域人材や地域の要望を聞いたり、保護者への協力を促したりして、教育活動に生かしていきたい。

達成状況

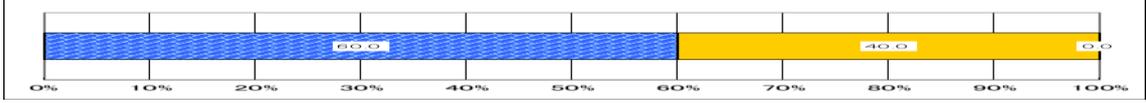
- ・昨年度 7 観点が今年度 4 項目である。4 項目のうち 2 項目が A 評価である。
- ・「あなたは生徒が夕学や家庭学習に取り組むように指導に努めている。（教員）」



・⑫「あなたは夕学に意欲的に取り組んでいますか」（全校生徒）



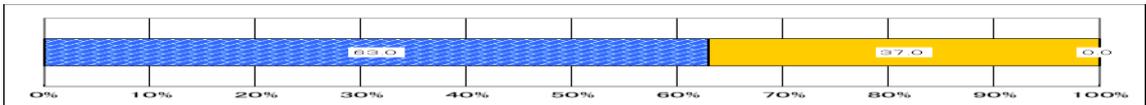
・「あなたは生徒理解に努め、生徒との信頼関係を築くように努めている」（教員）



・「あなたはフリートーク等、生徒のコミュニケーション向上に努めている」（教員）

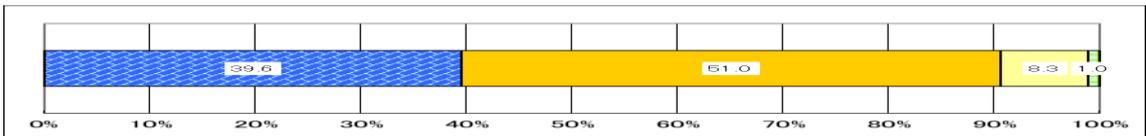
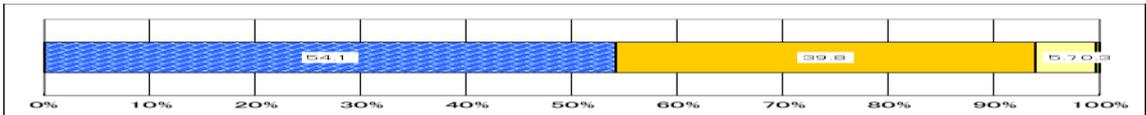


・「あなたは挨拶を積極的にしようと努めている」（教員）



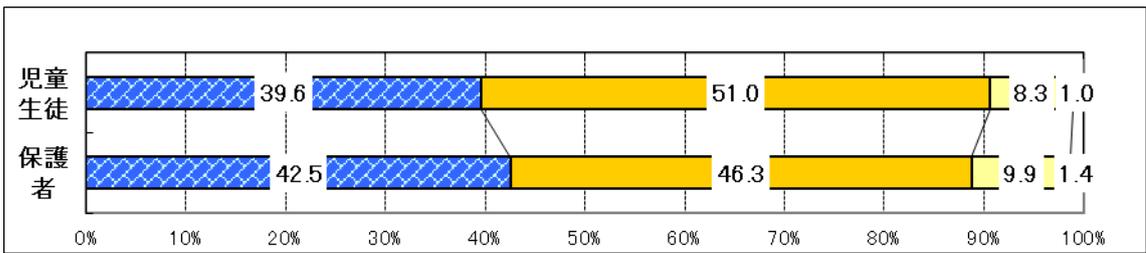
※「生徒アンケート」全校集計より

②だれとでも挨拶をしていますか。（上段 R2 下段 R3）全校



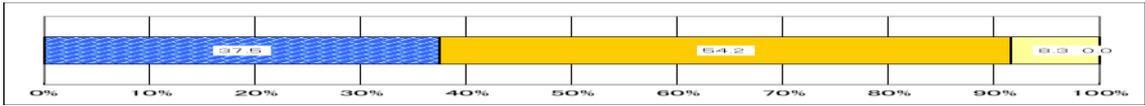
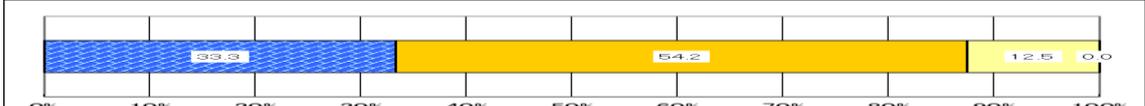
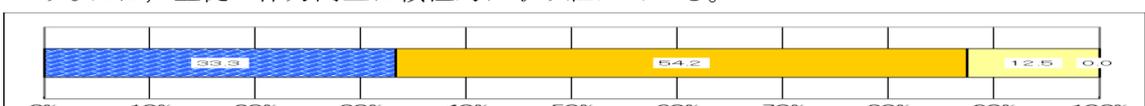
【関連項目の AB 評価の合計による比較】（R3）

生 徒：だれとでも挨拶をしていますか保護者：家庭で挨拶するよう言っている・学校は挨拶するよう指導している。



改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の指定を受け2年目となり、小中連携して「夕学」に取り組んだ成果が出ている。特に1年生において「夕学に意欲的に取り組んでいますか」に対して82.7%の生徒が取り組んでいると答えている。小学校から取り組むことで「夕学」を習慣化し「学力向上」や「家庭学習の習慣化」に繋がると考え、今後も取り組んでいくとともに、玉幡中の特色として定着してきていると考えられる。教師の指導と生徒の意識の多少ずれはあるが、今後も継続して粘り強く取り組んでいきたい。 ・今年度は、甲斐市の創甲斐教育を受けて表現活動と生徒のコミュニケーション向上を目指して取り組んできた。数年前までは生徒指導に多くの問題があったことを考えると、コロナ禍において、生徒がストレスを抱えている中でも、目標に向かって充実した学校生活を送ることができていることは、生徒も教職員も保護者も頑張っている成果と考える。今後もさまざまな取り組みにより、この状態を維持していきたい。 ・教職員の登下校指導におけるあいさつや保護者や保護司の正門でのあいさつ活動、生徒会のあいさつへの取り組みや、小中連携でのあいさつ運動など様々な活動を行っているが、昨年度よりも生徒のA評価は低くなっているのは残念である。今後も開かれた学校を目指し、継続して活動を進めていきたい。
-----	--

VII 創甲斐教育について

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度新たに入った創甲斐教育については、各学校で創甲斐教育をもとに、オリジナルで考えた項目であるが、AB評価の合計は90%に近い。 あなたは国語力の向上、言語活動に積極的に取り組んでいる。  <p>あなたは、道徳の授業や道徳の教育に意欲的に取り組んでいる。</p>  <p>あなたは、生徒の体力向上に積極的に取り組んでいる。</p> 
------	---

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動は、さまざまな取り組みが考えられる。特に話し合い活動などは、コロナ禍の中では難しく、言語活動と言われても国語の教師でも意識して取り組まないと、A評価にはならない。しかし、この項目は創甲斐教育の一環であるので、全職員でもう一度意識して取り組んでいきたい。 ・道徳の授業については、今年度は特に、菊池先生を招いて自己肯定感を高める取り組みを行った。また友だちとのコミュニケーションを意識させる取り組みとして、帰りの会に全校で「フリートーク」にも取り組んだ。しかし、道徳の授業は毎週あり、専科の教科授業とは違い、授業の仕組み方を毎回考えて行かなければならないのは負担となっている教員もいる。学年によっては、担任だけでなく学年所属の教員もクラスに入って、道徳の授業を行っている。「議論する道徳」に移行して3年目となるが、全教職員の協働により、これからも生徒と共に道徳の授業を研究し、自信を持って実践していけるようにしていきたい。 ・「体力向上」については、中学校では体育の授業以外に部活動もあるので、意識して取り組んでいる教員は多い。しかし、全員が専門の部活動の教員ではないので、A評価になる
-----	---

ほどは自信が無いということも考えられる。生涯、生徒が健康で生活できるように教師も共に体力づくりに励んでいきたい。

3 まとめ<成果と課題>

- ・今年度はコロナにより9月に分散登校が行われたが、毎日の検温等、保護者の協力や教師・生徒の努力、国の政策による学習支援スタッフの増員等により概ね教育課程は達成しつつある。しかし、昨年度同様に多くの制約と消毒や健康管理、行事の見直し等、コロナに翻弄された1年だった。今後もできることを着実にを行い、生徒が健やかに成長できるよう取り組んでいきたい。
- ・本校には生徒指導上の諸問題がかつては多くあり、甲斐市教育委員会をはじめとした関係諸機関と連携する中で、それらの問題解決を図ってきた。様々な取り組みを経て、今では落ち着いた学校生活を生徒たちは送っている。しかし、今後も危機管理意識をもって、この状態を維持・向上させられるよう、教職員一丸となって安心安全な学校・玉中教育の更なる向上に努めていきたい。
- ・保護者・保護司・生徒による朝のあいさつ運動、毎日の教職員の登下校指導を例年通り継続的に行ってきた。また例年行われてきた9月の保護者・生徒で校庭及び周辺の除草作業を、PTA役員の方と教職員という形にはなったが昨年度同様に実施できた意義は大きい。また、学園祭の際にはPTAの役員さんに保護者の健康チェックをお願いした。このような状況でもPTA役員さんを中心に、学校に貢献しようと努力してくださっていることに対し、とても心強く勇気をいただいた。今後もさらに地域とともにある玉幡中を目指し、継続していける取り組みを考えていきたい。
- ・例年、地域や家庭との連携を推進するため、学校開放日を設け地域に開かれた学校づくりに取り組んできた。今年度は昨年度同様コロナの影響はあったが、学園祭体育の部では全保護者の参観とした。また、文化の部はライブ配信や録画配信を行ったことは成果である。また保護者に学校の考えや思いを伝える機会が減少した中で、校長通信「風の記憶」が定期的に配布された意義は大きいと思う。学級通信やホームページなど保護者に学校を理解していただき、かけはしとなる取り組みを今後も継続していきたい。
- ・校内研で9年間を見通した小中連携による「学力向上」をテーマに「家庭学習の充実」「帰りの会の前の授業の振り返り」「やりとり帳による担任と生徒とのつながり」、またコミュニケーション力の向上を目指して、菊池先生を講師に招き道德の授業を取り入れるなど、学校では様々な取り組みを行って、学習面・精神面で生徒支援に努めている。しかしアンケートにもあるように、学校での授業に関わる課題や、家庭でのスマホ等の使い方や睡眠時間や学習時間についての基本的な生活習慣の見直し等、学校と家庭がより一層連携して取り組む必要がある。また、県や市からの小中連携研究校の指定は今年度で終了するが、小中の教職員で培ってきた実践を無理なく今後も児童生徒のために行っていきたい。玉中学区の子ども達が自分自身の力で未来を拓いていかれるように育てていきたい。
- ・今年度は、ギガスクール構想による一人一台パソコン(クロームブック)やデジタル教科書の導入、新学習指導要領の全面実施となりICT機器の活用による個別最適な学びが求められるようになった。そのため教師は学びの連続で、走りながら考え、トライアンドエラーの連続で、さらにコロナへの対策などで疲弊していることが、教師の学校評価の「多忙すぎる」という言葉から伺える。このことは、生徒への指導への影響も懸念される。やはり、今の状況を打開するのは、教員の増員を切に願う。
- ・今年度新たな取り組みとして、ライブ配信や希望による授業の配信も行ったことは、今後のオンライン授業などへの移行を考えると成果であるが、全ての教師がICTを得意だということではないので、これから相互に学んでいく必要がある。